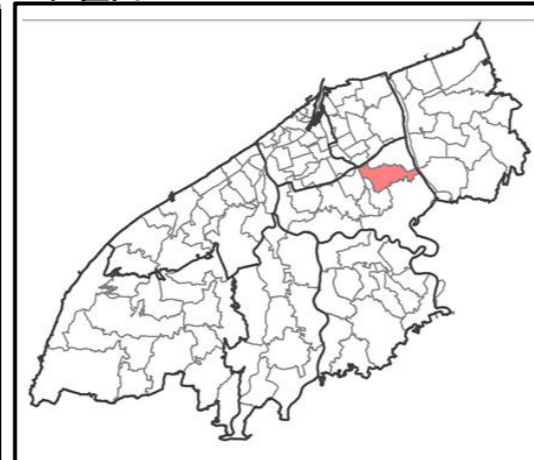


様式1 人口、建物、避難所等の施設、災害危険性の評価

●住所名称

北山		
蔵岡		
笹山		
直り山		
西山		
松山		
丸山		
丸山ノ内善之丞組		
茗荷谷		

●位置図



●地区内の避難所・津波避難ビルなど

施設名 [ヒ]:避難所、[ツ]:津波避難ビル・場所	標高 (m)	階数	避難可否			
			地震	津波	洪水	土砂災害
[ヒ]丸山小学校	5.6	4	○	—	全階可	—
[ヒ]大江山中学校	8.6	4	○	—	全階可	○

●施設・団体

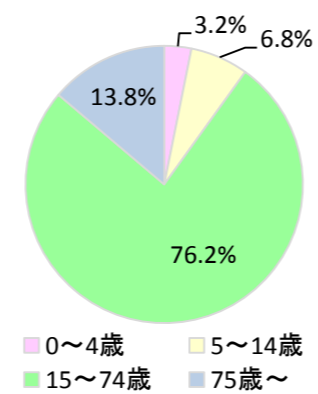
市役所・区役所等	—
警察・消防	—
消防団	江南方面隊 大江山分団
水防倉庫	—
一時避難場所	西山公園、北山池公園、大江山公園
広域避難場所	—
主 利 な 用 要 施 配 設 慮 者	幼稚園・ 保育園 松葉保育園、大江山保育園
	高齢者 福祉施設
	障がい者 福祉施設

●地区外の避難所・津波避難ビルなど

施設名 [ヒ]:避難所、[ツ]:津波避難ビル・場所	標高 (m)	階数	避難可否			
			地震	津波	洪水	土砂災害
[ヒ]南中野山小学校	0.8	4	○	—	2階以上	—
[ヒ]亀田西小学校	1.1	3	○	—	2階以上	—
[ヒ]亀田市民会館	1.5	2	○	—	2階以上	—
[ヒ]亀田第四保育園	0.4	2	○	—	2階以上	—
[ヒ]亀田第五保育園	-0.3	2	○	—	2階以上	—
[ヒ]亀田小学校	2.0	3	○	—	2階以上	—
[ヒ]亀田第一保育園	1.8	2	○	—	2階以上	—
[ヒ]亀田東小学校	2.3	4	○	—	2階以上	—
[ヒ]新潟向陽高等学校	0.5	3	○	—	2階以上	—
[ヒ]亀田第二保育園	1.1	2	○	—	2階以上	—
[ヒ]亀田第三保育園	2.1	2	○	—	2階以上	—
[ヒ]横越小杉保育園	4.2	1	○	—	×	—
[ヒ]大淵小学校	1.4	4	○	—	2階以上	—

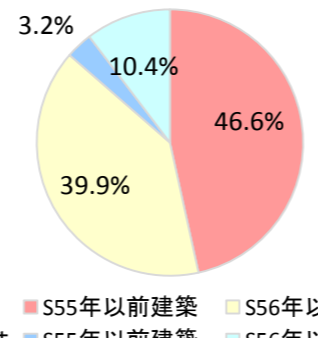
●人口

	総人口	地区の割合	市の割合
0～4歳	115人	3.2%	4.0%
5～14歳	247人	6.8%	8.5%
15～74歳	2,777人	76.2%	74.6%
75歳～	503人	13.8%	12.9%
65歳以上人口	1,069人	29.4%	26.0%
世帯数	1,249世帯		
一世帯あたり人口	2.9人/世帯		2.5人/世帯
人口密度	555人/km <sup>2</sup>		1,108人/km <sup>2</sup>
昼間人口	5,118人	夜間の140.5%	



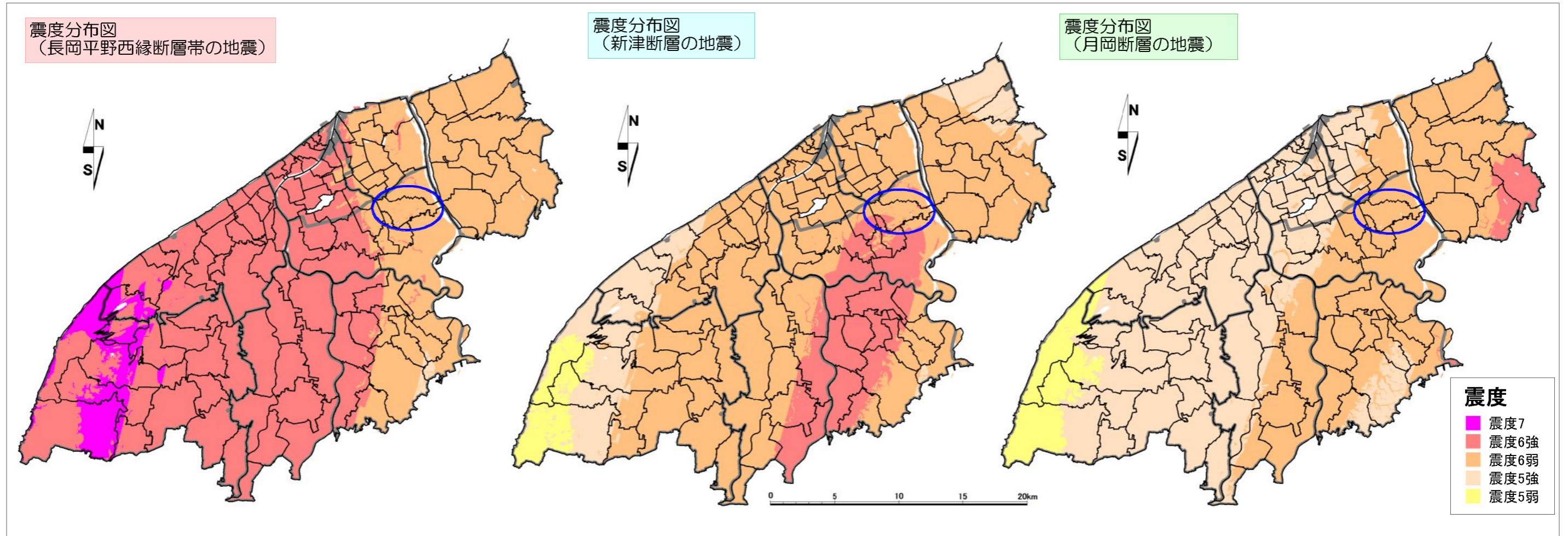
●建物関連指標

	総棟数	地区の割合	市の割合
木造			
S55年以前建築	1,165棟	46.6%	44.2%
S56年以降建築	998棟	39.9%	46.7%
計	2,163棟	86.4%	90.9%
非木造			
S55年以前建築	81棟	3.2%	3.4%
S56年以降建築	259棟	10.4%	5.7%
計	340棟	13.6%	9.1%
S56年以降建築物	1,257棟	50.2%	52.4%



●災害危険性の評価

津波	地震	地区の大部分が軟らかい地盤の上に分布するため、大きい地震の時には、強い揺れの可能性がある。地区南部の砂丘では、がけ崩れの危険がある。阿賀野川では、津波による水位の上昇が想定されている。
土砂	水害	阿賀野川の洪水、信濃川下流の洪水、鳥屋野潟流域及び小阿賀野川・能代川の洪水によって、地区南部の砂丘を除く広い範囲で浸水の可能性がある。土砂災害警戒区域等が分布しており、がけ崩れの危険がある。



	長岡平野 西縁断層帯	新津断層	月岡断層
地震の規模: モーメント マグニチュード	7.46 (気象庁マグニチュード 7.9に相当)	6.45 (気象庁マグニチュード 6.7に相当)	6.76 (気象庁マグニチュード 7.1に相当)
(参考※)	平均活動間隔 約 1,200 年~3,700 年  断層の活動性 3m/千年程度	明確な活動性は明らか になっていない。  月岡断層より、活動性 は低いと考えられる。	平均活動間隔 7,500 年以上  断層の活動性 0.4m/千年程度

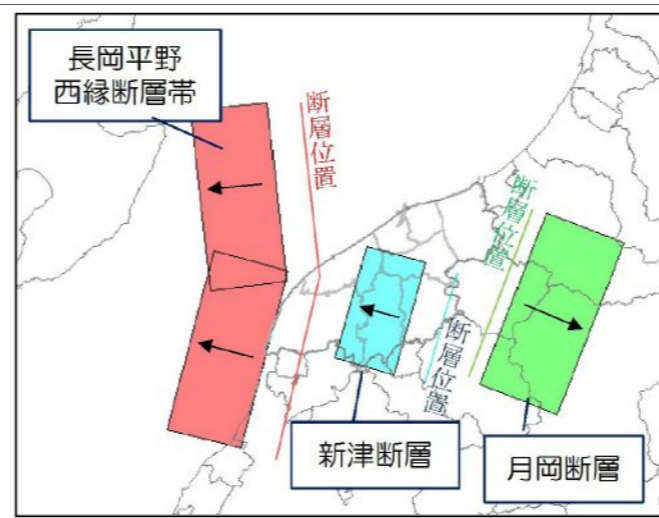
※(参考) 国の地震調査研究推進本部の活断層帯の長期評価(算定基準日:平成 27 年 1 月 1 日)及び東京大学地震研究所 佐藤比呂志教授の助言を参考として記載しています。

【地震発生確率について(地震調査研究推進本部資料より)】

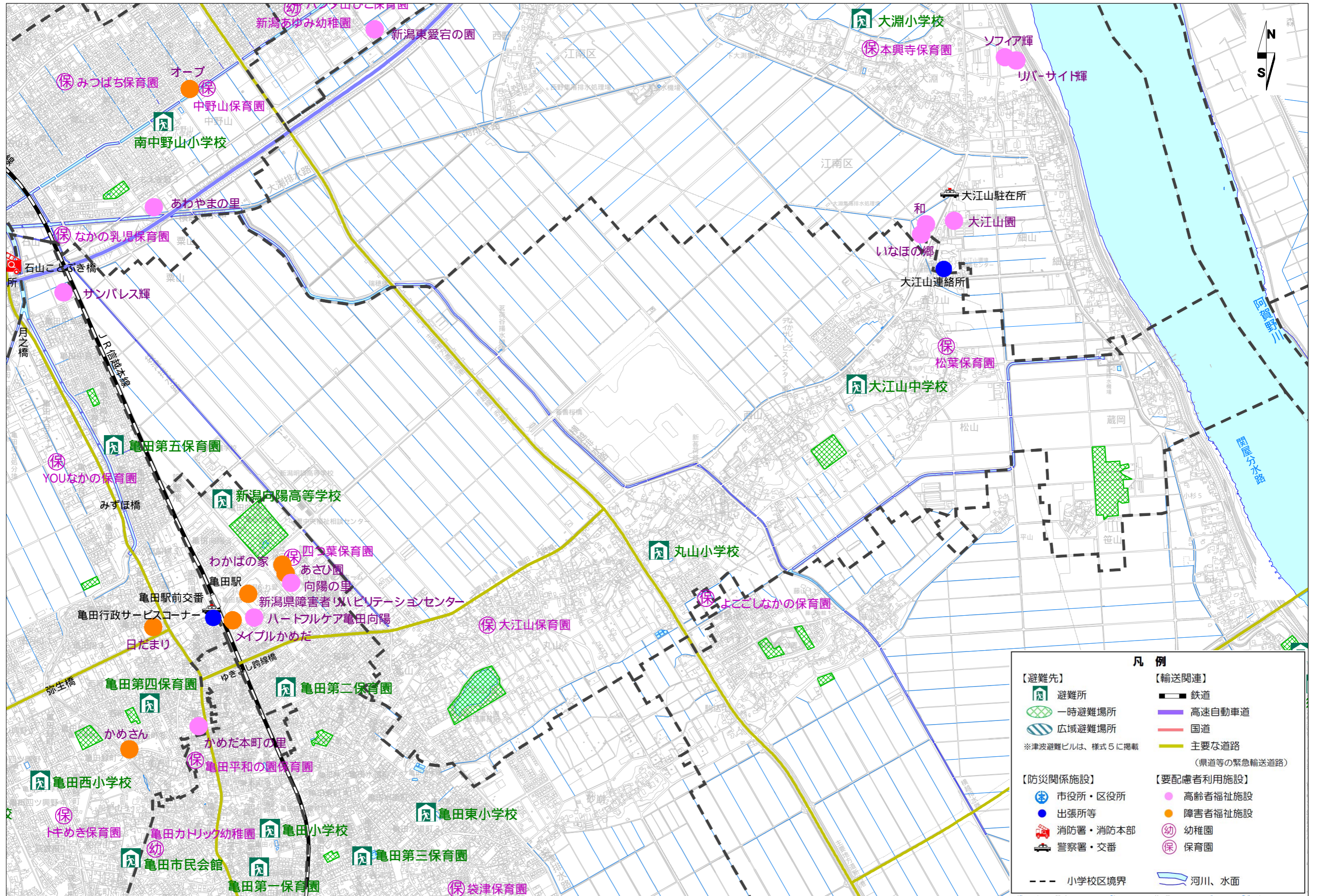
過去の地震活動の時期や発生間隔は、幅を持って推定せざるを得ない場合が多いため、地震発生確率は不確定さを含んでいます。また、新たな知見が得られた場合には、地震発生確率は変わることがあります。

<<モーメントマグニチュードと気象庁マグニチュード>>

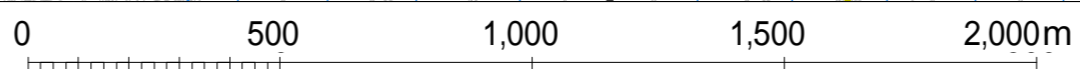
モーメントマグニチュードは、地震で岩盤が動いた面積等をもとに計算するため、計測に時間を要しますが、エネルギーの規模を正確に測定することができます。これに対して、気象庁マグニチュードは、地震計で計測される波の振幅から計算しており、迅速に発表することができます。

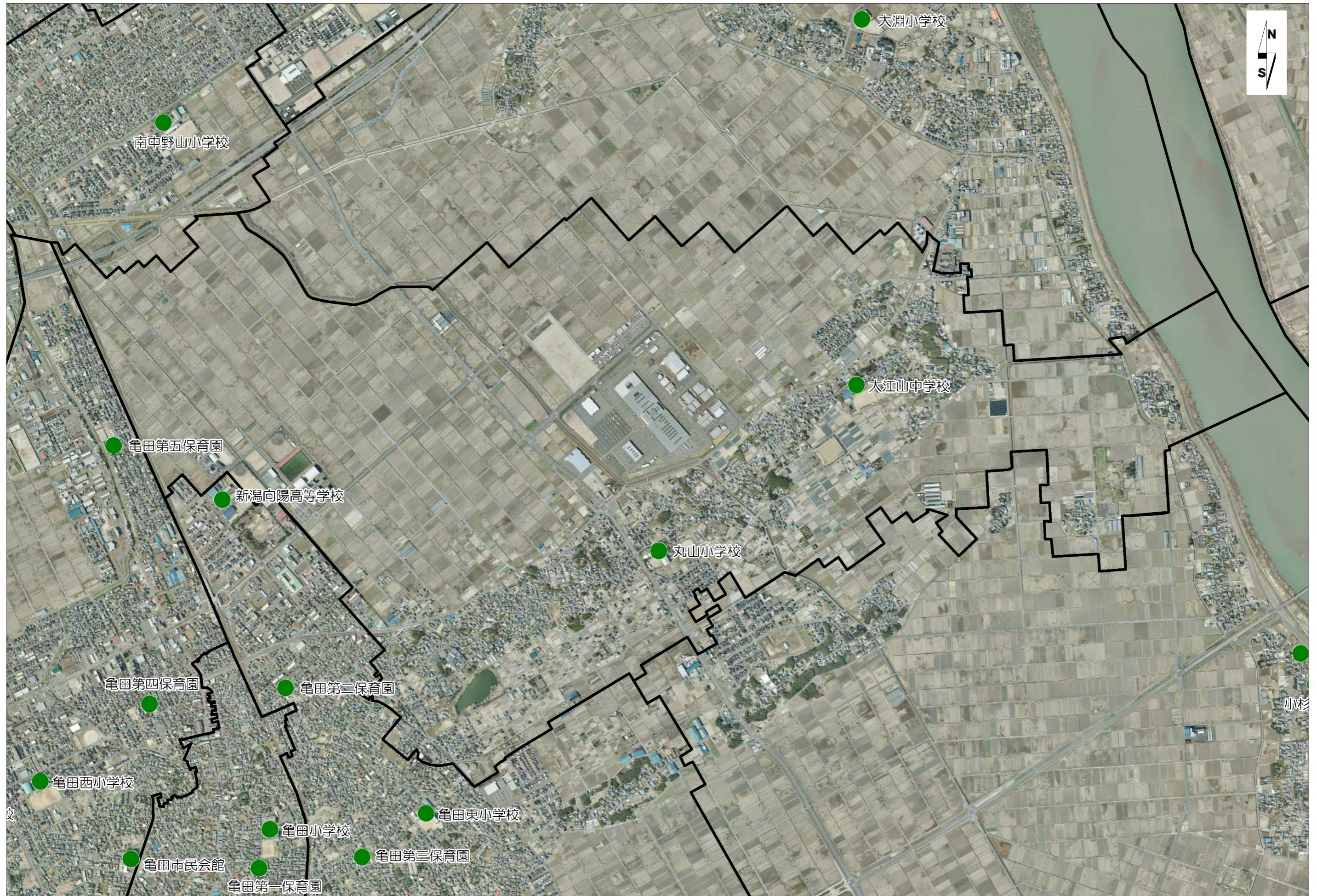


← は、断層の傾きを示しています。

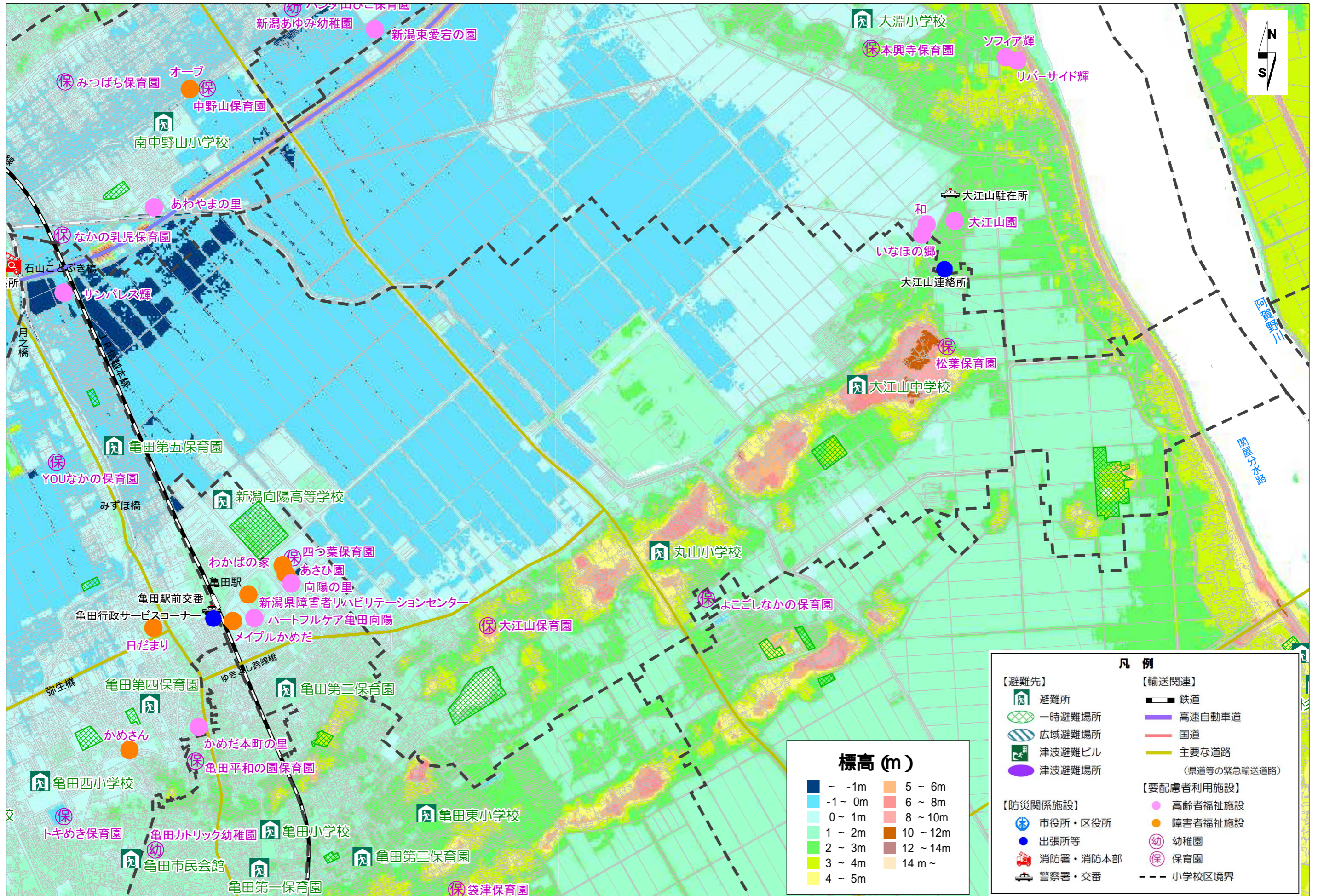


[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年, 平成25年, 平成26年)

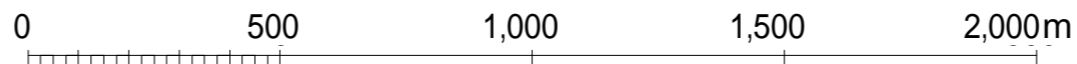




様式5 標高分布図

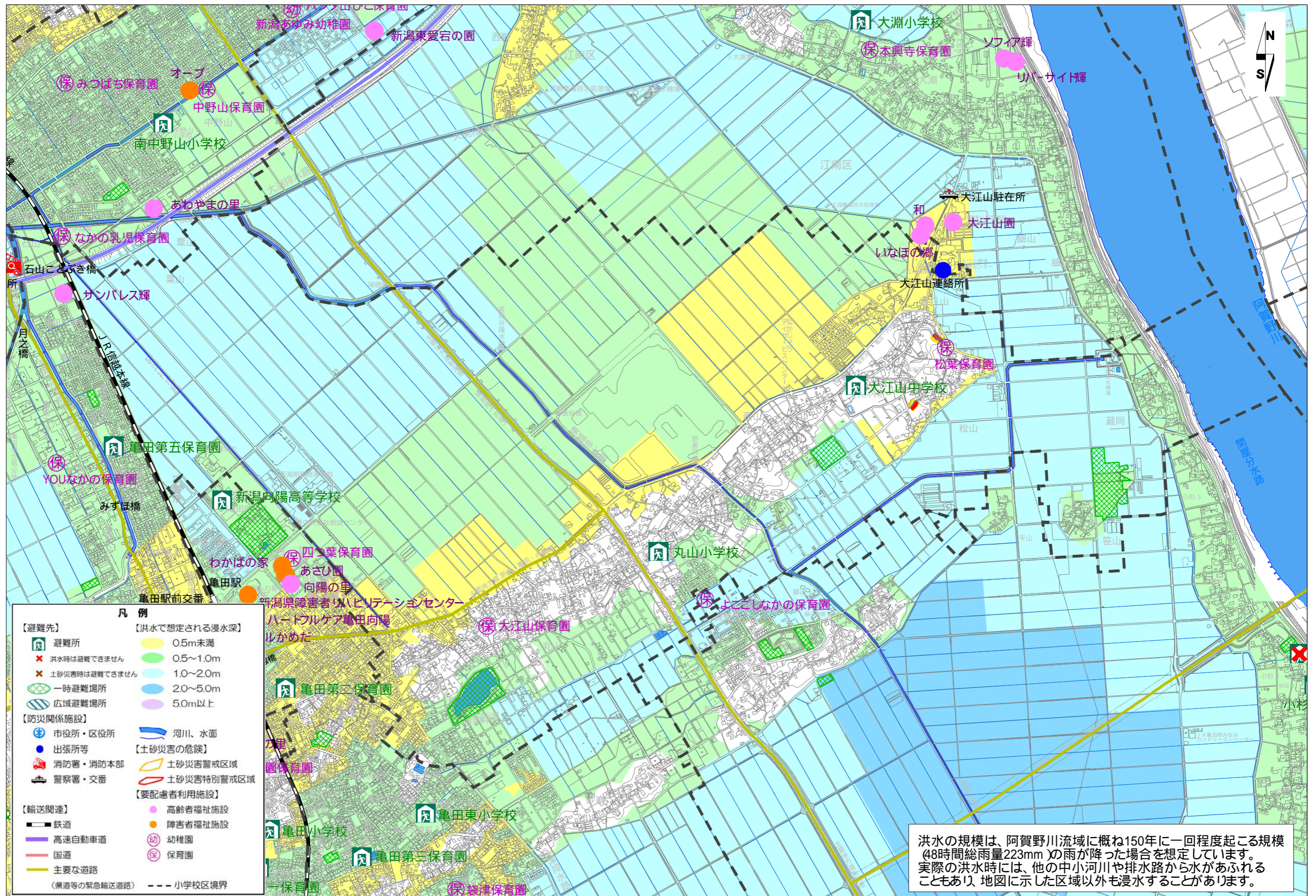


[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年, 平成25年, 平成26年) 5mメッシュDEM (国土地理院, 平成25年)



様式6-1 風水害（洪水・土砂災害）対策地図（阿賀野川）

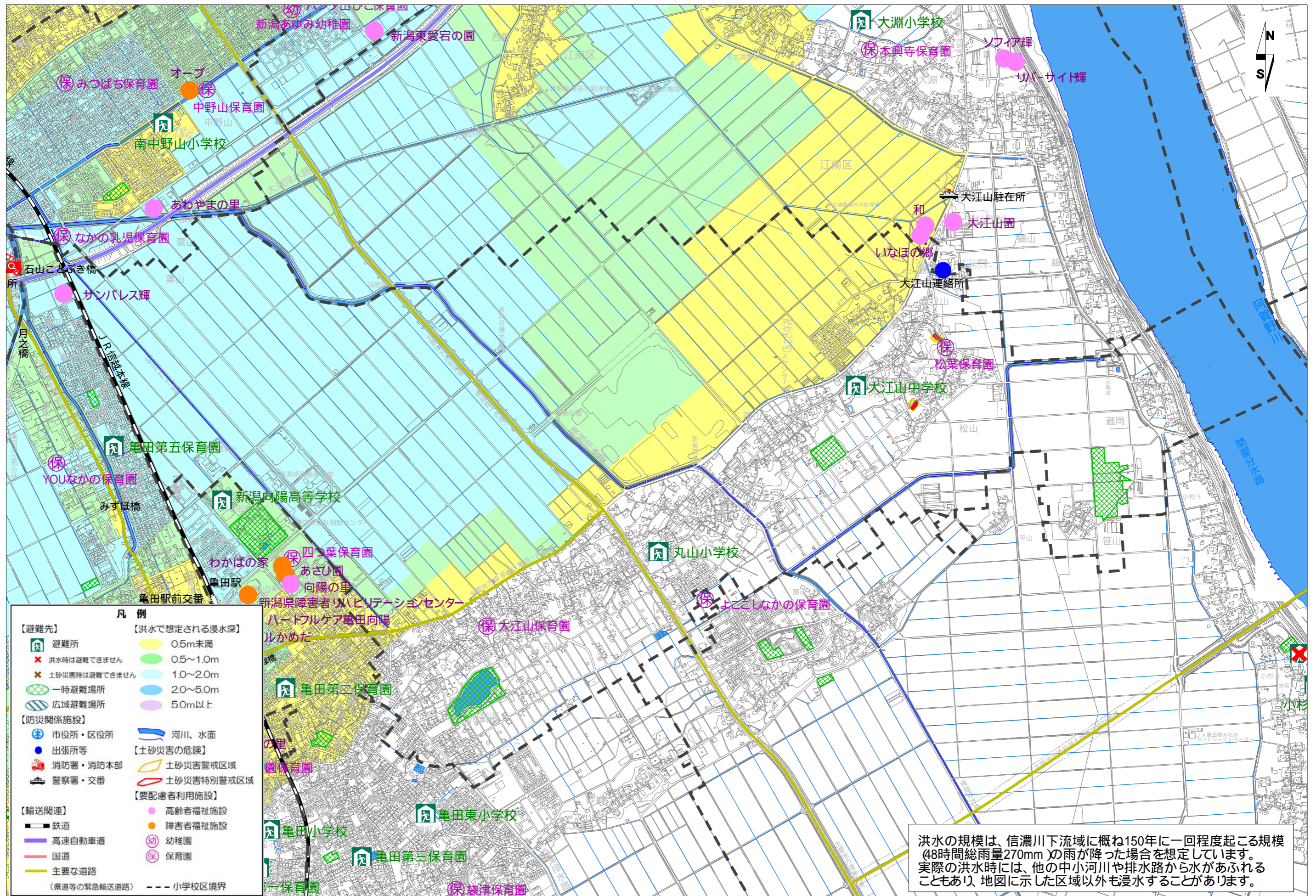
丸山小学校区



【出典】 基盤の地図 新潟市国土基本図（平成20年，平成25年，平成26年）  
阿賀野川浸水想定区域（国土交通省，平成14年1月31日）

0 500 1,000 1,500 2,000m

様式6-2 風水害（洪水・土砂災害）対策地図（信濃川下流）

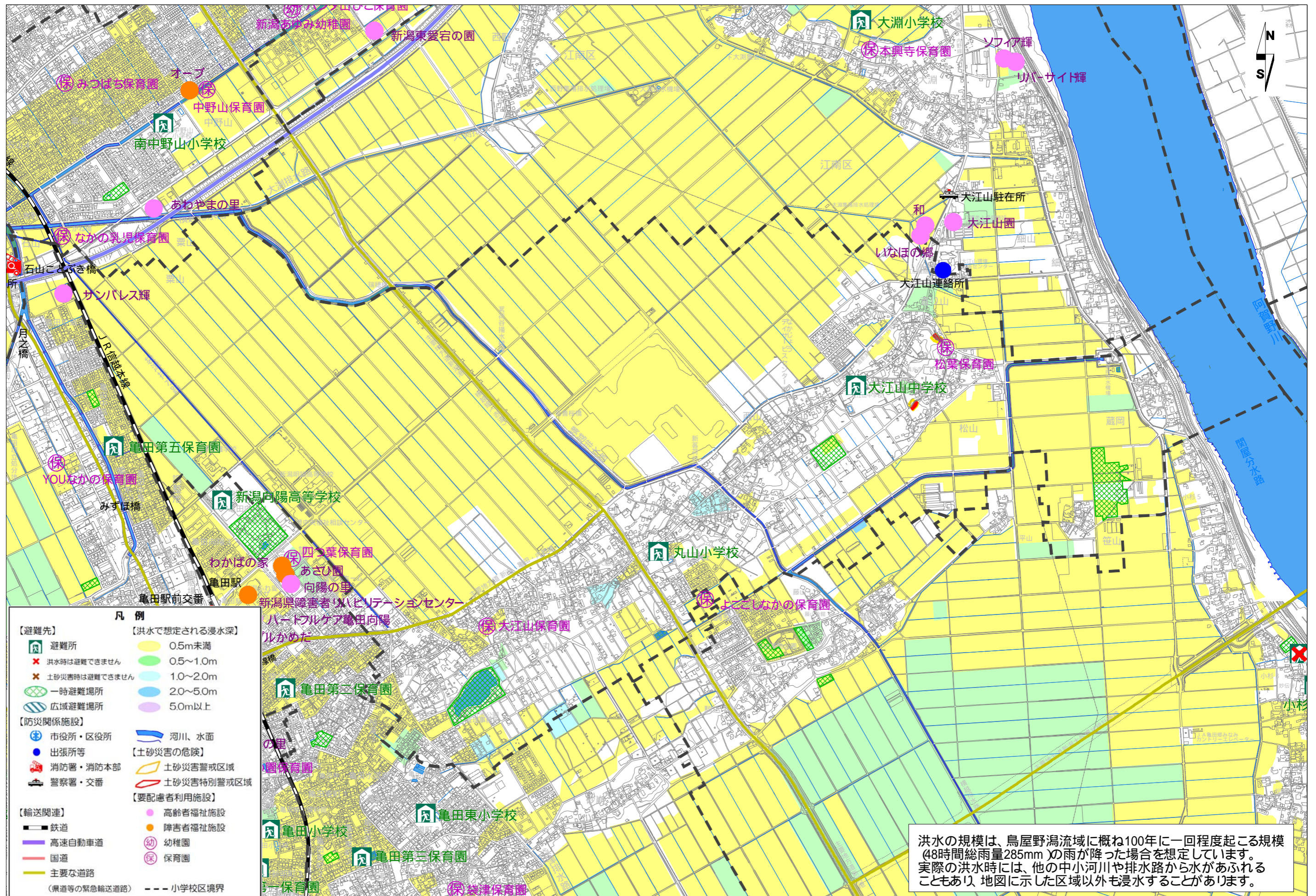


[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図(平成20年,平成25年,平成26年)  
信濃川下流浸水想定区域(国土交通省,平成14年4月30日)

0 500 1,000 1,500 2,000m

様式6-3 風水害（洪水・土砂災害）対策地図（栗ノ木川上流・鳥屋野潟・鳥屋野潟放水路）

丸山小学校区



洪水の規模は、鳥屋野潟流域に概ね100年に一回程度起こる規模（48時間総雨量285mm）の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。

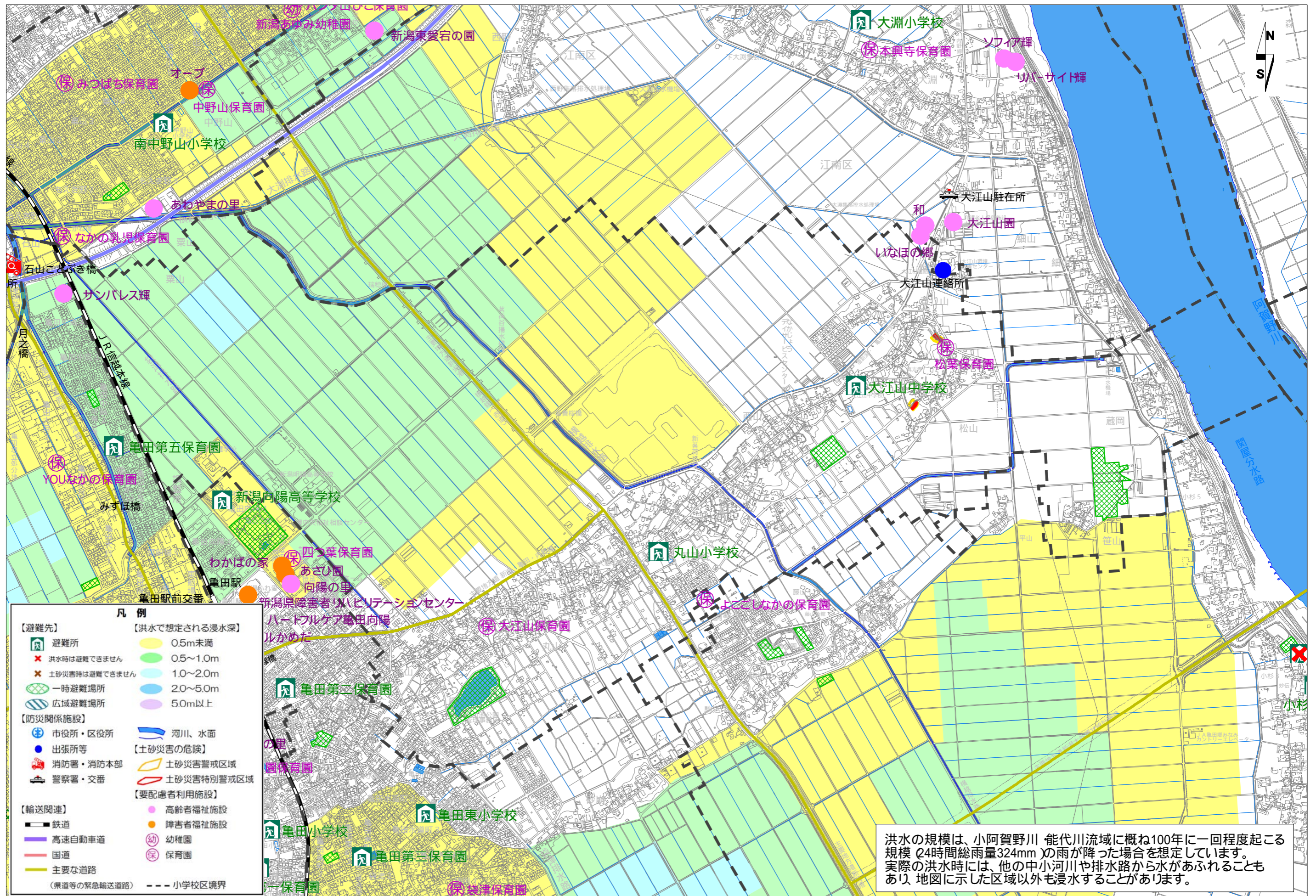
【出典】 基盤の地図 新潟市国土基本図（平成20年、平成25年、平成26年）  
 栗ノ木川上流・鳥屋野潟・鳥屋野潟放水路浸水想定区域（新潟県、平成18年8月25日）





様式6-4 風水害（洪水・土砂災害）対策地図（小阿賀野川・能代川）

丸山小学校区



[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図(平成20年,平成25年,平成26年)  
小阿賀野川・能代川浸水想定区域(新潟県,平成16年6月23日)

